



継ぎ目に 隙なし

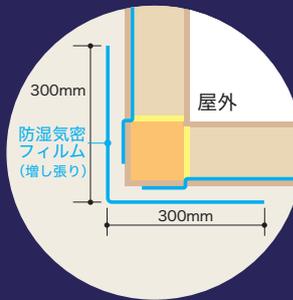
その⑤

スウェーデンハウスの壁パネルは、スウェーデンの現地工場で製品化しているため、安定して高い性能を確保しています。外壁パネルには、窓入り、ドア入り、無開口（窓もドアもなし）のパネルがあり、基準となる寸法は、幅1200mmと幅600mmの2種類。スウェーデンハウスはどのプランの家でも、これらのパネルの組み合わせでできています。その上で、パネル単体の高い気密・断熱性能を正しく発揮させるためには、施工する際、室内側に防湿気密フィルムを貼ることが大事です。

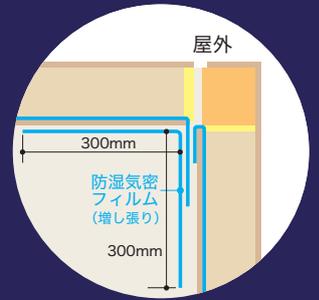
隙間なく連続して張る

今回は、建物（外壁）の角の部分を気密性の弱点にさせないための気密対策をご紹介します。

● 壁パネル同士の直角な接合部の防湿気密フィルムの施工



角が室内側に出っ張る所：入隅
壁パネルの防湿気密フィルムを、それぞれ角のスタッド材（柱材）へ伸ばし、継ぎ目を覆う。この上から、約600mmの防湿気密フィルムを重ねる。

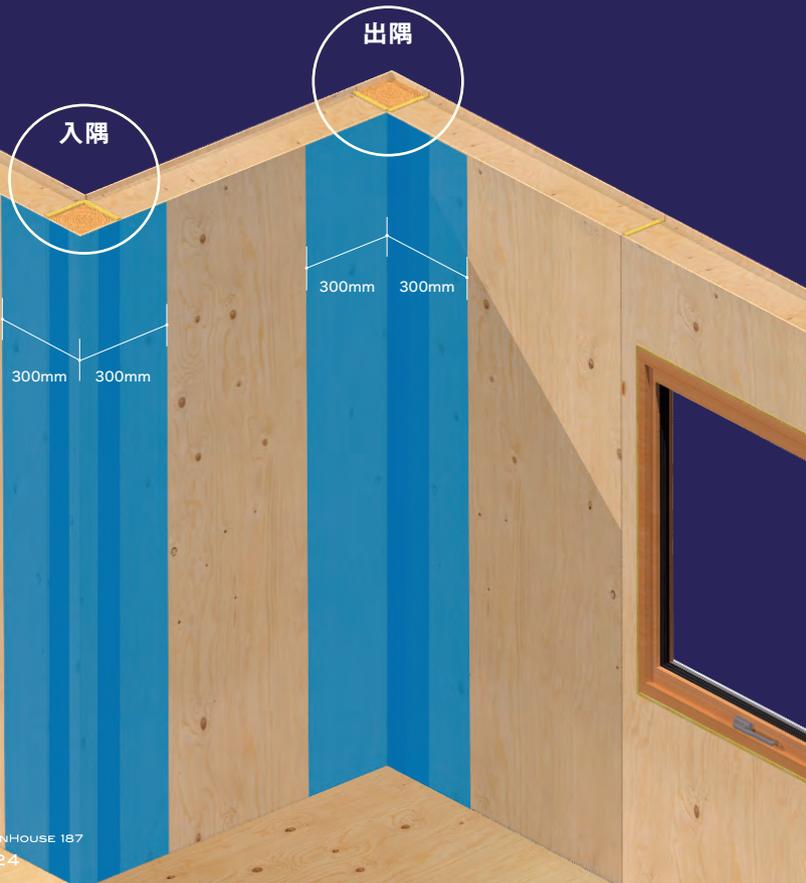


角が戸外に出っ張る所：出隅
壁パネルの防湿気密フィルムを一方は折り返し、もう一方は重ね合わせる。さらにこの上から、約600mmの防湿気密フィルムを重ねる。

防湿気密フィルム

だわり

一般的な木造住宅では、防湿気密フィルムは、重ねしろを30mm以上確保するよう気密工事の指針があります。スウェーデンハウスでは、さらに1辺300mmずつ増し張りをして気密性を高めています（図参照）。スウェーデンハウスは、**0.2mm厚**の防湿気密フィルムを採用しているのは、スウェーデン国立検査研究所の認可を受けたスウェーデン製のもの。実はスウェーデンは世界の中で住宅用防湿気密フィルム研究の先進国です。JIS（日本産業規格）の基準は、スウェーデンの基準を大幅に取り入れて制定しています。日本では一般的に、



0.2mm厚を推奨

します。

0.1mm厚もしくは0.15mm厚が多く使用されています。スウェーデン製の防湿気密フィルムは、厚さ0.2mm。JIS※は、高い気密性能を求める場合には、施工時の損傷防止や継ぎ目部のシール性から、**0.2mm厚**は、0.1mm厚に比べると、透湿抵抗値、引張強度、耐久性が大幅に上回ります。スウェーデンの現地工場生産される高品質の壁パネル。すべての建物において、その性能を正しく発揮させるための施工技術がここにあります。スウェーデンハウスの快適性能は、こうして叶えられているのです。

※スウェーデンハウスで「防湿気密フィルム」と呼んでいるものは、JIS（日本産業規格）上は、「住宅用プラスチック系防湿フィルム」という名称です。